

町医者だより

平成19年8・9月
合併号

＜発行・お問合せ先＞

おおわだ内科呼吸器科

院長 大和田 明彦

市川市南八幡4-7-13

シャポール本八幡2階

JR本八幡駅南口(シャポール改札口)

1分ミスタードーナツ並び

スーパーつるかめ(旧フレック)2階

電話047-379-6661

おおわだ
内科
呼吸器科

結核のはなし

今回は結核のお話です。最近、アメリカ在住の弁護士が「超多剤耐性結核菌」に感染しているにもかかわらずヨーロッパに新婚旅行に行き、帰国の際に強制的に隔離されたという報道を記憶されている方もいらっしゃると思います。

結核は結核菌による感染症です

結核を起こす結核菌はマイコバクテリア属に属する細菌の一種ですが、結核の病変を起こす菌が5種類あるため正確には結核菌群と呼ばれています。結核は感染した人がすべて発病する訳ではなく、1年後に発症する割合は10%程度と決して高くはありません。しかしながら、結核の怖いところは人から人に感染が拡大していくことで、有史以来人類を苦しめてきました。

人口当たりの結核患者数が先進国の中で一番多い日本

以前から指摘されてきた事ですが、この傾向は現在も変わりありません。20-30歳台の新規感染患者と70歳以上の高齢者患者数の減少が思うように進んでいないためです。

高齢者では以前かかった結核がぶり返してしまう「再燃」が多いと言われてきましたが、「再感染」や「反復感染」による発症が主流になってきました。

薬の効かない結核菌が増えてきました

結核の治療薬であるイソニアジドとリファンピシンの両者が効かない結核菌を「多剤耐性結核菌」と呼びます。近年この2剤に加えてカナマイシン、カプレオマイシン、アミカシンの少なくとも1剤とフロロキノロンが効かない「超多剤耐性結核菌」が増加傾向にあってアメリカを中心に不安が広がっています。ここ10年、アメリカやヨーロッパでも結核への関心が高まっているのですが、それはエイズの蔓延が関係しています。エイズ患者が高率に結核を発症するからです。エイズに合併した結核は、細胞性免疫の低下のため薬が効きません。

BCG接種は生後6ヶ月までに必ずお受け下さい！

BCGが赤ちゃんだけを対象にするようになりました。生後3カ月から接種できます。できるだけ早い時期での接種をお勧めします。と言いますのも、BCG接種が乳幼児の結核性髄膜炎を予防するからです。

せきが長く続く場合一度は胸部レントゲン検査を

結核が咳の原因だったという方は実際のところ非常にまれです。しかしながら周囲への感染のリスクを考えると「せき」の原因として結核の可能性を常に念頭に置いておく必要があります。結核が周りの人に感染するリスクは、患者さんの「痰の中の結核菌の数」と「咳をしていた期間」の積に比例します。

新しい検査が開発されました

従来からの痰や胃液細菌検査、胸部レントゲン検査、ツベルクリン反応に加えて採血で結核の感染の有無が分かるようになりました。「クオンティフェロン」という名前の検査で患者さんの血液中のT細胞リンパ球が結核菌抗原の刺激に対して放出するインターフェロン・ガンマ量を測定します。結核の初期感染から診断を可能にした画期的な検査です。ただし生きた細胞を使用しなくてはならないため私が検査を依頼しているSRLなどの検査会社ではまだ対応が難しく、現時点では結核の専門病院のみで検査が可能です。